藪田重守の２つの墓

後期企画展「藪田重守－柳澤藩草創期を支えた家老－」にちなみ、今回は藪田重守の２つの墓についてご紹介します。

まず、1つめの墓は同家の菩提寺である恵日山発志禅院（奈良県大和郡山市外川町）に所在します。息子の里守が建てた墓石の銘文を読んでみましょう（大意訳）。

> 善忠院白鷗元徹居士（重守）は、甲斐国主侯（柳澤吉保・吉里）の家老として禄3000石をいただき、かたじけなくも憲廟（五代将軍徳川綱吉）・昭廟（六代家宣）両将軍の厚恩を賜った。さらに、吉里侯からは「柳沢」の姓を与えられ、吉保侯においては末娘（増姫）を息子里守の妻になされるなど、はかりしれない寵栄を受けた。和州郡山への転封後は致仕を願い、白鷗と号した。延享４年(1747)9月晦日卒、享年84歳。

発志禅院の墓石

そして、もう一方の墓が所在するのが甲斐（山梨県）の乾徳山恵林寺（甲州市塩山）です。これも里守が建てた墓ですが、発志禅院よりも小ぶりで、戒名のほかに「俗名柳沢市正紀重守／延享四年丁卯九月晦日卒」と刻まれただけのシンプルな銘文です。

甲斐恵林寺の墓石

当時の柳澤家中でも、このように郡山と旧領甲斐の２箇所に墓を設けた事例は珍しかったようです。なぜ２つの墓が必要だったのでしょうか。

じつは恵林寺には、柳澤吉保・定子夫妻の墓があります。当初、夫妻は菩提寺の龍華山永慶寺（創建時は甲府市、のち大和郡山市永慶寺町）に葬られましたが、柳澤家の郡山転封にともなう同寺の移転により、恵林寺に改葬されました。つまり、重守の２つめの墓は、主君の墓所の傍らに設けられたのです。

これは重守たっての希望だったと考えられます。というのも、里守が墓石に刻んだように、吉保・吉里父子が重守に寄せた信頼は厚く、特別に「柳沢」姓を下賜されるほどでした。さらに、吉保が里守を娘婿に選んだことで、一門に準ずる待遇を受けています。重守はこうした恩寵を忘れず、吉保の死後も生涯にわたり柳澤家のために尽くしました。享保９年（1724）の転封後は、主君が眠る甲斐の地を離れて郡山に移り住みますが、吉保を慕う気持ちは衰えず、その言行を『源公実録』にまとめ、吉保の孫で３代藩主の信鴻に献上しました。

２つの墓の存在からは、死してなお主君吉保に仕えんとする重守の深い忠誠心をうかがい知ることができます。

令和３年度（2021 年度）後期企画展のご案内

「藪田重守 －柳澤藩草創期を支えた家老－」

会期：令和４年１月 15 日（土）～５月８日（日）
休館日：月曜・第４火曜日（ともに祝日の場合は開館）

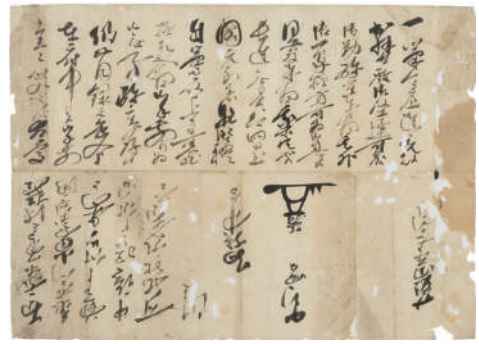
※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止のため、状況に応じて休館する場合があります。詳細は柳沢文庫ホームページ（http://www.mahoroba.ne.jp/~yngbunko）のお知らせを見ていただくか、お電話（0743-58-2171）でお問い合わせ下さい。

藪田重守（1664 ～ 1747）は、柳澤吉保（1658 ～ 1714）の家老として名を馳せた人物です。元禄期に５代将軍徳川綱吉の側近として頭角をあらわした吉保に仕官し、用人・家老などを歴任。江戸における柳澤家の取次役として、全国各地の大名たちから信頼を寄せられたことが知られ、政治史上の重要人物として注目されています。のちには無二の臣として「柳沢」姓を与えられました。吉保の死後も、江戸城御殿の改修で失態をおかした柳澤家の危機を救うなど、草創期の柳澤藩を支えました。

柳沢文庫には、この藪田家に伝来した古文書 1,159 点（「藪田家・佐竹家文書」）が寄贈されており、なかには各地の大名が自筆でしたためた書状も多数確認できます。本展示では、2021 年９月に刊行した『柳澤藩家老「藪田家文書」の目録と解題』（横田冬彦氏編）にもとづき、豊富な近世文書を読み解きながら、藪田重守の活躍についてご紹介します。

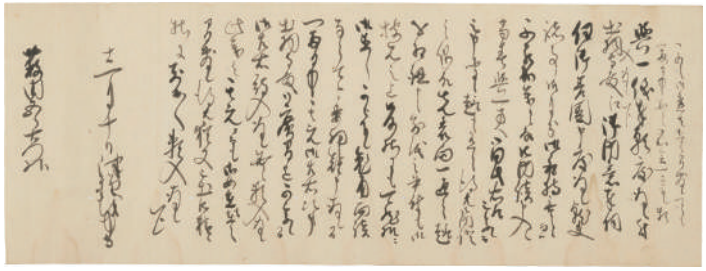
展示内容の一部をご紹介します。

最初は、肥後熊本 54 万 1,169 石の大名細川綱利から重守に宛てた書状です**［写真１］**。ここで綱利は、無事に熊本へ帰国した報告とあわせ、江戸在府中に受けた重守の厚意に対する感謝を自筆で記しています。現在よりも身分の上下関係がはるかに厳しかった江戸時代において、大名が他家の家臣にあてて書状を送るのは珍しいことでした。しかし、綱利の場合は、かつて自身の母が病床にあった際に、重守と吉保のとりなしによって参勤交代の時期をずらしてもらった経緯があり、重守と直接書状のやり取りを重ねるようになりました。綱利から重守への書状は、確認されているだけで 111 通におよびます。

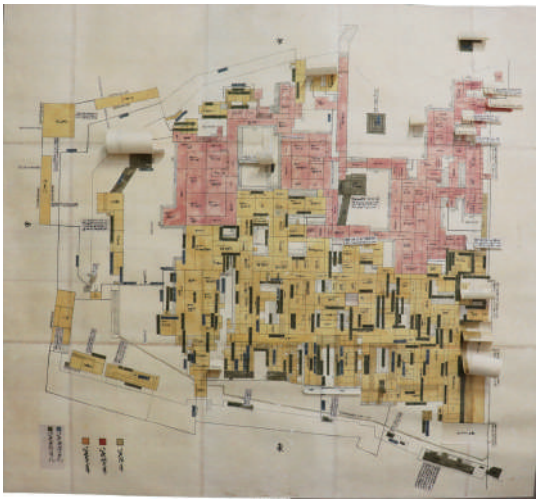


【写真１】細川綱利自筆の書状（柳沢文庫）

当時、将軍の側用人をつとめた柳澤吉保のもとには、大名家から内々で様々な相談事が寄せられました。江戸家老の重守は、こうした「内談」をさばき、しかるべきタイミングで主人に取り次ぐ役割を担っていました。藪田家旧蔵の文書群は、現在、柳沢文庫「藪田家・佐竹家文書」と大和郡山市「豊田家文書」とに分かれて所蔵されており、肥前佐賀の鍋島綱茂や讃岐高松の松平頼常をはじめ、各地の大名から届いた書状が多数含まれています。陸奥弘前４万 6,000 石の津軽信政は、親族の那須家再興の取り持ちを依頼しています**［写真２］**。これらの書状群は、江戸時代の政治中枢の裏側を知ることができる貴重な歴史資料といえるでしょう。



【写真２】津軽信政自筆の書状（柳沢文庫）



【写真３】江戸城西の丸表方修復仕所色分絵図
（豊田家文書〈大和郡山市〉）

【写真４】藪田重守著『永慶寺殿源公御実録』（豊田家文書）

こうして重責をつとめ上げた重守ですが、吉保の隠居後は、２代藩主吉里の「側向御用」、いわば後見役の家老に命じられ、２代にわたる重臣として仕えました。しかし、吉保の死後に柳澤家は危機を迎えます。江戸城西の丸御殿の改修が柳澤家に命じられた際、惣奉行をつとめた豊原勝羨らが幕府役人に対して賄賂を贈ったなどの不行跡が８代将軍吉宗の耳に入り、吉里の責任が問われる一大事に発展したのです。豊原はのちに自害し、重守が惣奉行を引き継ぎました。重守は、かつて江戸家老をつとめた際の交渉経験を活かしながら事態を収拾し、何とか難局を切り抜け、「主人之為一筋」の働きを評価されます。この時の書類や指図なども大切に残されています**［写真 3］**。

その後、柳澤家は、甲斐府中から大和郡山への転封を命じられますが、この直後に重守は隠居します。郡山の屋敷において、重守は膨大な史料の整理･収集を経て『永慶寺殿源公御実録』を編集しました。「永慶寺殿」、すなわち柳澤吉保の人物像を伝える本書は、柳沢史料集成第１巻『源公実録』として刊行され、現在も読み継がれています。**［写真 4］**。

柳沢文庫所蔵「水木コレクション」（古文書・絵図）

大阪大学大学院文学研究科の日本史講座との共同調査を開始しました。

水木要太郎（十五堂、1865～1938、郡山に居住し奈良女子高等師範学校<現奈良女子大>教授など歴任）の蒐集資料のうち、江戸時代の郡山に関する古文書や絵図類を調査対象としています。感染対策のため、第１回（11月）は規模を縮小した予備調査となりましたが、総点数1,767点に及び、貴重な資料が含まれることを確認しました。今後、複数年かけて調査を進めていく予定です。

★お知らせ★

令和３年度(2021 年度) 柳沢文庫歴史塾（郡山学）

※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大の観点から、開催を延期または中止とすることがあります。詳細はホームページのお知らせを見ていただくか、お電話でお問い合わせ下さい。

時　間　14：00 ～ 15：30

会　場　DMG MORI やまと郡山城ホール
　　レセプションホール

定　員　65 名（事前申込必要。定員を超えた場合は抽選）

参加費　200 円　※柳沢文庫友の会会員の方は参加費無料です。

〈申込方法〉

【一般】住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、申込受付期間中必着で、往復葉書にてお申し込み下さい。※期間外の申込は受付いたしません。

【友の会会員】専用申込はがきにて締切日必着にてお申し込み下さい。

〈宛　先〉〒 639-1011 奈良県大和郡山市城内町 2-18　柳沢文庫歴史塾　係

第４回　令和４年１月29日（土）

家老藪田重守－柳澤吉保を支えた苦労人－

講師：横田 冬彦 氏
（京都大学名誉教授　柳沢文庫調査研究専門委員）

申込期間：令和４年１月11日（火）～18日（火）必着

第５回　令和４年２月26日（土）

『楽只堂年録』本文完結記念

柳澤吉保－その俗説をこえて－

講師：宮川 葉子 氏
（元淑徳大学教授　柳沢文庫収蔵史料研究会委員）

申込締切：令和４年２月１日（火）～14日（月）必着

柳沢文庫 販売物ご案内

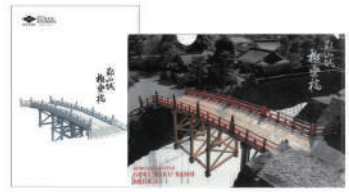
『柳沢文庫収蔵品図録』2,000 円（1,800 円）
秋季特別展「筒井順慶」図録 1,000 円（900 円）
「柳澤吉保没後三〇〇年記念 柳澤家伝来の名品」展 図録
　500 円（450 円）
『史料纂集　楽只堂年録』
　第１巻～第３巻　13,000 円（10,400 円）
　第４巻～第８巻　14,000 円（11,200 円）
　第９巻　15,000 円（12,000 円）
『柳澤吉保の一面』400 円（320 円）
柳沢史料集成
　第５巻　公儀勤方集　4,000 円（3,200 円）
　第６巻　参勤交代年表 上　5,000 円（4,000 円）
　第７巻　参勤交代年表 中　5,000 円（4,000 円）
　第８巻　参勤交代年表 下　7,000 円（5,600 円）
　第９巻　参勤交代年表 続　7,000 円（5,600 円）
　第 10 巻　参勤交代史料集 御例集　7,000 円（5,600 円）
『大和郡山城天守台石垣岩石種調査報告書』700 円（560 円）

『大和郡山藩主松平（柳澤）甲斐守保光
　－茶の湯と和歌を愛した文人大名　堯山』700 円（560 円）
『江戸に生きて－正親町町子の半生－』　1,000 円
絵図セット（和州郡山藩家中図・享保家中図・大和郡山城）
　500 円（400 円）
ポスター 郡山城絵図の世界 第二版　500 円（400 円）
御殿だるまシール　100 円
クリアファイル
　・和州郡山藩家中図　350 円
　・柳澤信鴻画　牡丹錦鶏図　350 円
　・徳川綱吉書　過則勿憚改　350 円
　・和州郡山藩家中図・牡丹錦鶏図・過則勿憚改 3 枚セット　1,000 円
　・郡山城極楽橋カラー　350 円
　・郡山城極楽橋モノクロ　200 円
絵はがき「城跡景観」８枚セット　500 円（400 円）
郡山城来訪記念証（御城印）　300 円　※文庫受付のみにて販売

※()は友の会会員価格です。表記のないものは割引なし。

【来訪記念証】

和州郡山藩家中図・牡丹錦鶏図・徳川綱吉書 過則勿憚改
【クリアファイル】


郡山城極楽橋（モノクロ・カラー）

＊柳沢文庫では、友の会会員を募集しています。　年会費一般１,５００円／学生７５０円

公益財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会　〒 639-1011　奈良県大和郡山市城内町２－１８　Tel 0743-58-2171
http://www.mahoroba.ne.jp/~yngbunko　https://www.facebook.com/yanagisawabunko